

WEAN-SAFE study 和訳

この研究はヨーロッパ集中治療医学会の急性呼吸不全部門が実施する多施設共同前向きコホート 4 週間観察研究である。人工呼吸器からの離脱は、集中治療医にとって課題の一つであり、患者にとっては人工換気から解放されるのに相当の時間を要する。離脱を分類するガイドラインがあるにはあるが、それが必ずしも全ての患者に適応できないことが最近の研究でわかってきた。さらには、臨床の現場においては様々異なる離脱手順が実際に存在する。WEAN SAFE は理由の如何を問わず少なくとも 24 時間以上挿管下に人工換気が必要な患者において、人工換気からの離脱へのアプローチの要点、処理能力、取組みの幅を前方視的に評価するものである。

<理由>

この研究の目的は、大多数の ICU 患者において、人工換気からの離脱へのアプローチの要点、処理能力、取組みの幅を前方視的に明らかにするものである。そしてそれによって、以下の疑問に答えるものである：

- 人工呼吸からの離脱が遅れる頻度
- 侵襲的人工換気を受けている患者の離脱には現在どのような方法が用いられているか
- 患者がいつ離脱に向かえるかを判断するのに用いる指標は何か
- 侵襲的人工換気からの効果的な離脱を妨げる因子は何か
- どの様な因子（患者、施設、診療行為）が侵襲的人工換気からの離脱失敗に影響するか
- 侵襲的人工換気からの離脱に影響する病前状態は何か
- 現存する分類の中で侵襲的人工換気からの離脱に有用なものはどれか
- 侵襲的人工換気からの離脱の遅速に、あるいは失敗に影響する因子は何か

<時期>

この研究は世界中の ICU において 2017 年 10 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日までのうちの任意の 4 週間に渡って行う。

<取得データ>

急性低酸素性呼吸不全で入室し、侵襲的人工換気が必要となる全ての患者からは基本情報を取得する。24 時間を超えて人工換気が必要な患者からはさらに詳しいデータセットを取得する。

<施設の認証(IRB)は必要か>

倫理審査が必要か否かは ICU が所属する国による。IRB の認証はその地域の法規に則り必要であれば各施設で取得する。多くの国では、国別コーディネーターが参加施設と連絡を取り、参加施設が IRB の認証を得やすいように手助けする。

(訳者注：日本においては私、国際医療福祉大学の倉橋清泰がその任に当たりません)

<報酬>

研究への参加は完全に任意であり、報酬はない。この研究は急性呼吸不全で侵襲的人工換気が必要となった患者において人工換気からの離脱における管理や効果の重要な情報を提供するために行うものである。

<著者条件>

この研究の結果は指名された WEAN-SAFE 運営委員により発表される。参加施設やその筆頭研究者は協力者 (collaborator) として論文には記載される。さらに、(集めた患者数が) 人口で補正して上位 2 カ国と絶対的に多かった上位 2 カ国は、論文の執筆者として招請され、著者としての権利も提案される。

<参加方法>

世界中からあらゆる大きさの集中治療室の参加が求められる。興味のある場合はここをクリック。(訳者注：英文本文の青字部分 [here](#))

<書類>

近日中にオンラインで入手可能 (訳者注：既に入手できます。
<http://www.esicm.org/research/WEAN-SAFE>)

<共同研究代表者>

Giacomo Bellani, A.O. San Gerardo, Monza, University of Milan Bicocca, Italy

John Laffey, Saint Michael's Hospital, Toronto, Canada

<連絡先>

お問い合わせは、こちらをクリック。(訳者注：英文本文の青字アドレス research@esicm.org)